

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 12 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310163

研究課題名（和文）占領～ポスト占領期のアメリカ広報宣伝/メディア政策—
映像とラジオを中心に研究課題名（英文）The U.S. Information Policy in the Occupation and Post-Occupation
Years: A Focus on Moving Images and Radio Broadcasting

研究代表者

土屋 由香 (Yuka TSUCHIYA)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：90263631

研究成果の概要（和文）：2011年3月と2012年3月の2回、研究代表者・分担者および海外研究協力者による国際シンポジウムを東京大学で開催し、研究成果を公表するとともに貴重なフィードバックを得た。2012年のシンポジウムの内容は、同時に論文集（共著書）にまとめられ、2012年6月末に刊行される予定である。3年間の共同研究を通して、冷戦初期アメリカの海外向け視聴覚メディアに関する研究が、政策と受容の両側面において大きな進展を見た。

研究成果の概要（英文）：Two international symposia (March 2011 and March 2012) were held at University of Tokyo by the Japanese researchers and overseas collaborators. In each symposium, research findings were presented, and precious feedbacks were received. The contents presented at the 2012 symposium have been compiled as a book, which will be published by the end of June 2012. The three-year project has accomplished a bid stride of progress in the research of U.S. audio-visual media in the early Cold War years, both in terms of policies and their reception.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2011年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：北アメリカ、アメリカ研究、冷戦研究、広報外交、文化外交、
ドキュメンタリー映画、国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

2009年秋に本科研チームが発足した当時、CIE/USIS 映画の研究はまだ非常に少なく、VOA ラジオのアジアにおける展開についても先行研究は手薄であった。CIE/USIS 映画

研究者と VOA 研究者を含む科研チームが発足した背景として、以下の要素があった。

(1) 2004年群馬県の桐生市で発見された100本以上の CIE 映画を、東京大学大学院情報学環・東京国立近代美術館フィルムセンタ

一・国際日本文化研究センター・日本映画新社が中心となり修復保存するプロジェクトが立ち上げられた。これを受けて2006年、東京大学大学院情報学環を中心に「CIE映画研究会」が発足した。

(2) 2006~2008年度科研プロジェクト(基盤研究B)「冷戦初期アメリカ合衆国の環太平洋地域における情報・産業政策に関する学際的研究」(代表者:土屋由香)によって、冷戦初期にUSIA、CIA、米軍、ハリウッド映画業界、一般企業、財団等、多様な米国側の主体が、アジア各国において展開した広報宣伝活動について学際的研究が行われた。

(3) 研究代表者の土屋は2001年頃から米国ミネソタ大学アメリカ研究学部博士課程でCIE映画研究に従事しており、それを含む博士論文が2004年に提出・受理された。

以上のような背景から、CIE/USIS映画とVOAラジオ研究者の緩やかなネットワークが築かれ、2009年の科研申請につながった。

2. 研究の目的

本プロジェクトは、対日占領期~ポスト占領期(主に1950年代)アメリカの対外情報政策、特にドキュメンタリー映画(CIE/USIS映画、その一部はテレビ放映もされた)とラジオ(VOA: Voice of America)に焦点を当て、これらの政策と受容の諸側面を明らかにしようとするものである。アメリカ研究、メディア研究、映像文化論、大衆文化研究、ジェンダー史研究等の学際的見地から、また韓国やアメリカの研究者とも連携を保ちながら、最終的に研究成果の刊行を目指して共同研究を進める。

3. 研究の方法

初年度(2009年度)には、研究計画の細部について話し合うとともに、国内外の研究者を招いて助言指導を受ける機会を設けた。初年度~2年目にかけて、研究代表者・分担者はそれぞれ長期休暇等を利用して国内外で調査・資料収集を行った。例えば研究代表者の土屋および研究分担者の谷川・小林は、主として米国立公文書館で史料調査を行った。土屋は原子力平和利用に関するUSIS映画のフィルムと関連文書、谷川はスポーツを通じた文化外交にかんするUSIA史料、小林はVOAラジオ放送の中継局に関する史料を収集した。一方、国内調査については、例えば研究分担者の原田は主として新潟県内における聞き取り調査と史料調査を行い、研究協力者の身崎は、日本各地のCIE/USIS映画所蔵状況について現地調査を実施した。

1年目の終わり頃にメンバーの一部がパネルを組んでアメリカの学会(American Studies Association)にプロポーザルを提出したところ受理され、2年目にこの学会で研

究成果の一端を国際発信した。また「研究成果」の項にも記すとおり、2011年3月と2012年3月の2回、国際シンポジウムを開催するとともに、論文集(共著書)の刊行に向けて、各自研究成果のとりまとめを進めた。

またこれらと並行して、原田はVOAの録音テープのアーカイブ化を進め、身崎はCIE/USIS映画の所蔵状況調査にもとづく目録を作成するなど、史料の整備と公開も進めた。

4. 研究成果

3年間の学際的共同研究を通して、冷戦初期アメリカの海外向け視聴覚メディアに関する研究が、政策と受容の両面において大きな進展を見た。具体的な研究成果として、まず挙げられるべきものは、2011年3月および2012年3月の国際シンポジウムの開催、また2012年のシンポジウムの内容を同時に論文集(共著書)にまとめ刊行したことである。

これらを通して明らかになった内容は、以下のように要約することができる。

(1) 具体的事例を通して、CIE/USIS映画とVOAラジオ放送が、一方では冷戦期の国際政治の中に位置づけられるグローバルな事象でありながら、他方では地域に根差した文化や伝統と相互作用を惹起しながら受容されたことが浮き彫りになった。このことは、国内外における冷戦期メディア研究に重要な貢献をなすと考えられる。

(2) アーカイビングや地道な所蔵調査といったハード面での蓄積の重要性が改めて浮き彫りになり、本研究もこうした蓄積から恩恵を受けると同時に、逆に本研究を通してVOA放送やCIE/USIS映画の所蔵調査・公開に貢献することができた。

(3) CIE/USIS映画にかんする国際比較研究の端緒を開き、少なくとも日・韓・米の研究者ネットワークを築くことができた。これにより、今後の当該分野における国際共同研究に大きな進展をもたらすと考えられる。

(4) CIE/USIS映画とVOAラジオの研究を通して、「冷戦」と「文化冷戦」の研究に新たな一頁を加えることができた。また、これにより今日の世界を構成してきた冷戦の遺産について、より深い理解を得ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

- ① Yuka Tsuchiya, U.S. Industry and Technology in the Cultural Cold War: Case Studies of Korea and Japan in mid 1950s, Nanzan Review of American Studies: Proceedings of th

- e NASSS 2011、査読無、33巻、2011、189-207
- ② 小林聡明、「GHQ 占領期における在日朝鮮人団体機関紙の書誌的研究」、『インテリジェンス』、査読有、12号、2012、38-50
 - ③ 中村秀之、「光のなかの闇のなかの光、第4回恵比寿映像祭『映像のフィジカル』カタログ、査読無、2012、34-37
 - ④ 土屋由香、『アラスカ—49番目の州』と『ハワイ—50番目の州』—冷戦初期のUSIS映画と米国の太平洋地域におけるヘゲモニー、愛媛大学法文学部論集 総合政策学科編、査読無、30巻、2011、47-60
 - ⑤ 原田健一、占領期、響き合う文化の諸相、インテリジェンス、査読有、11巻 2011、99-105
 - ⑥ 原田健一、第441対敵諜報支隊第30区(新潟)での仕事——ジェームズ・E・イングリッシュに聞く、インテリジェンス、査読有、11巻、2011、60-69
 - ⑦ 小林聡明、「韓国検閲体制の起源—「帝国検閲」と植民地朝鮮」(韓国語)、『亜細亜研究』、査読有、54巻1号、2011、155-191
 - ⑧ 小林 聡明、史料紹介「韓国外交文書に見る沖縄返還：『琉球（沖縄）問題——問題点と政府立場』」、『Intelligence』早稲田大学 20世紀メディア研究所、査読無、Vol.11、2011、70-79
 - ⑨ 土屋由香、朝鮮戦争へのトルコ共和国軍派遣と USIS 映画—文化冷戦下における米国の国際メディア戦略、愛媛大学法文学部論集 総合政策学科編、査読無、28巻、2010、109-126
 - ⑩ 小林 聡明、冷戦期アジアの「電波戦争」研究序説—朝鮮戦争休戦後の VUNC (国連軍総司令部放送) に注目して—、応用社会学研究、査読有、52巻、2010、65-77
 - ⑪ 小林聡明、VOA 施設移転をめぐる韓米交渉—1972—73年、マス・コミュニケーション研究、査読有、75巻、2009、129-147

〔学会発表〕(計 32 件)

- ① 土屋由香、原子力平和利用 USIS 映画—核ある世界へのコンセンサス形成、シンポジウム「占領する眼・占領する声—CIE/USIS 映画と VOA ラジオ」、2012年3月4日、東京大学福武ホール
- ② 土屋由香、広報文化外交としての留学—ガリオア留学「オリエンテーション映画」(CIE 映画) に焦点を当てて、日本アメリカ史学会第8回(通算36回)年次大会、2011年9月18日、北九州市立大学
- ③ 土屋由香、広報文化外交としての原子力平和利用キャンペーン—核意識の転換をめざして、放射線・核・原子エネルギーと政治・経済・社会・文化に関する合宿研究会、2011年9月3日、湘南国際村センター
- ④ Yuka Tsuchiya, U.S. Industry and Technology in the Cultural Cold War: Case Studies of Korea, Nagoya American Studies Summer Seminar 2011、2011年7月24日、南山大学
- ⑤ 小林聡明、「沖縄返還と朝鮮半島出身者の法的地位」、国際シンポジウム『戦後日本の原風景』、2012年3月26日、神奈川大学
- ⑥ Somei Kobayashi, Coming Home, Smuggling, Deportation: The Politics on the Korean Border-Crossing between Japan and Southern Korea under the Occupations, 1945-1948”, Atomic Ordering on the Borders of Japan: Workshop, 2012年3月19、20日、New York University (米国)
- ⑦ 小林聡明、「冷戦期アジアにおける VOA の展開と中継所の世界的配置」、国際シンポジウム『占領する眼・占領する声—USIS 映画と VOA ラジオ放送』、2012年3月4日、東京大学
- ⑧ Somei Kobayashi, “A Historical Aspect of Atomic Energy: Implication for East Asia Corporation,” G20 Era and Regional Cooperation of Asia: A Search for A Directivity, 2011年11月24日、韓国外国語大学(韓国)
- ⑨ Somei Kobayashi, “‘Radio Wars’ in Cold War East Asia: US Psychological Operations and Radio Broadcasting from Okinawa”, Second International Forum for Peace and Prosperity in Northeast Asia, Sixty Years after the San Francisco Peace Treaty, Peace, Conflict, and Historical Reconciliation in the Asia-Pacific, 2011年11月18日、Columbia University(米国),
- ⑩ 小林聡明、「朝鮮戦争と国連ラジオ—英米「プロパガンダ」同盟の一側面」、20世紀メディア研究会、2011年9月24日、早稲田大学
- ⑪ 小林聡明、「沖縄返還と韓国人慰霊塔」、国際高麗学会日本支部第15回学術大会、2011年6月5日、大阪教育大学
- ⑫ 小林聡明、「核兵器とラジオ放送—韓国にとって沖縄返還とは何だったのか」、水曜セミナー、2011年5月3日、東北アジア歴史財団(韓国)
- ⑬ 中村秀之、「原水爆/家長/嫁——『生きものの記録』(1955)における「私」の自壊」、シンポジウム「1950年代日本映画における戦前・戦中との連続性・非連続性」、2011年7月31日、国際日本文化研究センター

- ⑭ 土屋由香、アイゼンハワー政権の原子力平和利用キャンペーンと USIS 映画、国際シンポジウム『占領期・ポスト占領期の視聴覚メディアと受容——民主化・冷戦・モダニティ』、2011年3月5日、東京大学大学院情報学環
- ⑮ Yuka Tsuchiya, The Significance and Potential Development of De-Centering the Cultural Cold War: The United States and Asia, American Historical Association, 2011年1月6日、Hynes, Convention Center, Boston, USA
- ⑯ Yuka Tsuchiya, Alaska, the 49th State, and Hawaii, the 50th State: USIS Films and the Cold War, American Studies Association, 2010年11月21日、Grand Hyatt, San Antonio, Texas, USA
- ⑰ 土屋由香、親米日本の構築—占領期～ポスト占領期アメリカの対日情報教育政策、第1回東アジア比較文化研究会学術シンポジウム、2010年9月9日、高麗大学校(韓国、ソウル)
- ⑱ 土屋由香、「米国広報文化交流庁(USIA)による広報宣伝の民営化」、「文化冷戦の時代—美國的資訊戦略與亞洲的傳媒發展」国際學術論壇、2010年5月5日、輔仁大学(台湾、台北)
- ⑲ 小林聡明、「Okinawa Reversion and U.S. Radio Broadcasting toward the Korean Peninsula」、American Historical Association, 2011年1月6日、Hynes, Convention Center, Boston, USA
- ⑳ 小林聡明、「在日朝鮮人メディアと米占領軍検閲」、招待講演、2010年12月2日、ソウル大学日本研究所
- ㉑ 小林聡明、「越境する思想とアメリカの介入—米軍政期南朝鮮検閲された私信は、何を語ったのか」、韓国日本思想史学会、2010年11月27日、成均館大学(韓国、ソウル)
- ㉒ 小林聡明、「戦後日本文化外交の一考察」、韓国世界地域研究学会、2010年9月30日、延世大学(韓国、ソウル)
- ㉓ 小林聡明、「朝鮮戦争期における国連軍の捕虜教育プログラム」、「文化冷戦の時代—美國的資訊戦略與亞洲的傳媒發展」国際學術論壇、2010年5月5日、輔仁大学(台湾、台北)
- ㉔ 小林聡明、「冷戦期東アジアにおけるアメリカ・プロパガンダ——韓国・北朝鮮、そして沖縄」、国際シンポジウム『占領期・ポスト占領期の視聴覚メディアと受容——民主化・冷戦・モダニティ』、2011年3月5日、東京大学大学院情報学環
- ㉕ 小林聡明、「東アジア冷戦とアメリカ・ラジオ：VUNC(国連軍総司令部放送)の廃止をめぐって」、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
- ㉖ 小林聡明、「沖縄返還とラジオ放送」、日本国際政治学会、2010年10月28日、札幌コンベンション・センター
- ㉗ 小林聡明、「冷戦期東アジアの「電波戦争」と沖縄返還」、シンポジウム「沖縄をめぐる日米情報戦」、2010年9月20日、早稲田大学国際会議場
- ㉘ 小林聡明、「電波戦争」発進基地としての沖縄—米国による心理戦とプロパガンダ・ラジオに注目して」、東洋音楽学会、2010年7月10日、京都市立芸術大学
- ㉙ 小林聡明、「沖縄返還と朝鮮半島出身者の法的地位問題」、国際高麗学会、2010年6月13日、立命館大学
- ㉚ 土屋由香、アメリカ合衆国の対外情報教育政策の文脈における占領期日本の女子教育改革、日本アメリカ史学会、2009年7月25日、専修大学神田キャンパス
- ㉛ 小林聡明、1940年代後半における日韓間の人の移動と米軍による監視、東アジア研究フォーラム、2009年11月5日、東北アジア歴史財団(韓国・ソウル)
- ㉜ Somei Kobayashi, Coming Home, Smuggling, Repatriating: Korean Border-Crossing and Media during the US Occupations of Southern Korea and Japan, 1945-1948, Second International Conference of the Japanese Studies Association in Southeast Asia, 2009年10月22日, Vietnam Academy of Social Sciences, (ベトナム・ハノイ)
- 〔図書〕(計10件)
- ① 土屋由香、ミネルヴァ書房、「広報文化外交としての原子力平和利用キャンペーンと1950年代の日米関係」『日米同盟論—歴史・機能・周辺諸国の視点』竹内隆俊編著、2011、180-199
- ② 小林聡明、ミネルヴァ書房、「沖縄返還をめぐる韓国外交の展開と北朝鮮の反応」『日米同盟論—歴史・機能・周辺諸国の視点』竹内隆俊編著、2011、329-358
- ③ 小林聡明、創元社、「大衆宣伝」『戦争の「社会学」ブックガイド』福間良明、野上元編、2011、152-154
- ④ 谷川建司、青弓社、占領期を知るキーワード100、2011、372
- ⑤ 土屋由香、岩波書店、「CIE(ナトコ)映画」吉見俊哉他編『日本映画は生きている第7巻 踏み越えるドキュメンタリー』、2011、233-278
- ⑥ 土屋由香、春風社、「1920年代アジア太

平洋地域にかんする『知』の構築—日米
知的交流と『アップリフト』思想『1920
年代の日本と国際関係—混沌を越えて
「新しい秩序」へ』、2011、233-278

- ⑦ 小林聡明、京都大学学術出版会、「朝鮮人の移動をめぐる政治学—戦後米軍占領下の日本と南朝鮮」貴志俊彦編『近代アジアの自画像と他者』、2011、105-128
- ⑧ 小林聡明、東北亜歴史財団（韓国、ソウル、越境する人々の歴史経験（1945～1948年）—米軍占領下日本/南朝鮮の移動力学と構造」東北亜歴史財団編『歴史的な観点から見た東アジアのアイデンティティと多様性』（韓国語）、2011、281-311
- ⑨ 土屋由香、明石書店、親米日本の構築—アメリカの対日情報・教育政策と日本占領、2009、333
- ⑩ 石井仁志・谷川建司・原田健一共編、岩波書店、占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第四巻 躍動する身体、2009、316

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋 由香 (TSUCHIYA YUKA)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90263631

(2) 研究分担者

吉見 俊哉 (YOSHIMI SHUNYA)
東京大学・大学院情報学環・教授
研究者番号：40201040
中村 秀之 (NAKAMURA HIDEYUKI)
立教大学・現代心理学部・教授
研究者番号：00299025
原田 健一 (HARADA KENICHI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70449255
谷川 建司 (TANIKAWA TAKESHI)
早稲田大学・政治経済学術院・客員教授
研究者番号：10361289
小林 聡明 (KOBAYASHI SOMEI)
東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究員
研究者番号：00514499

(3) 連携研究者

該当なし